

要安全確認計画記載建築物【防災業務等の中心となる建築物】 耐震診断結果

広島市市所管分
令和6年3月22日時点

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考 (令和6年3月22日までに報告された数値)
						内容	実施時期	
1	安佐南警察署庁舎車庫及び武道場	広島市安佐南区西原九丁目88番地2	官公署 (警察署)	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=1.54 Is/Iso=2.05 CTU・SD=1.47	耐震改修済 (H29.2)	—	RC造部分 Iso=0.75
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.93 q=1.28			S造部分 Iso=0.75
2	安佐北警察署庁舎車庫、武道場及び検視室	広島市安佐北区可部四丁目1204番地1	官公署 (警察署)	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.89 Is/Iso=1.18 CTU・SD=0.888	耐震改修済 (H29.3)	—	RC造部分 Iso=0.75
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=1.33 q=1.62			S造部分 Iso=0.75
3	広島県警察本部別館出島庁舎(工場)庁舎	広島市南区出島二丁目18番地4	官公署 (警察署)	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.44 Is/Iso=0.58 CTU・SD=0.41	未定	未定	耐震診断の結果(詳細) Iso=0.75 X方向 1階 Is=0.49, CTU・SD=0.58 2階 Is=1.20, CTU・SD=1.14 PH階 Is=0.79, CTU・SD=0.75 Y方向 1階 Is=0.44, CTU・SD=0.41 2階 Is=1.12, CTU・SD=1.06 PH階 Is=1.85, CTU・SD=1.75
4	南観音公民館	広島市西区観音新町二丁目96番地	避難所 (収容規模が大きい避難施設)	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.80 Is/Iso=1.07 CTU・SD=0.78	耐震改修済 (R2.7)	—	耐震診断の結果(詳細) Iso=0.75 X方向 1階 Is=0.73, CTU・SD=0.826 2階 Is=1.17, CTU・SD=1.136 Y方向 1階 Is=0.66, CTU・SD=0.637 2階 Is=0.55, CTU・SD=0.531
5	草津公民館・集会所	広島市西区草津東二丁目233番地2	避難所 (収容規模が大きい避難施設)	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.75 Is/Iso=1.00 CTU・SD=0.70	耐震改修済 (R2.3)	—	耐震診断の結果(詳細) Iso=0.75 X方向 1階 Is=0.72, CTU・SD=0.68 2階 Is=0.64, CTU・SD=0.60 3階 Is=1.16, CTU・SD=1.09 4階 Is=0.50, CTU・SD=0.48 Y方向 1階 Is=0.59, CTU・SD=0.56 2階 Is=0.33, CTU・SD=0.32 3階 Is=0.45, CTU・SD=0.42 4階 Is=0.43, CTU・SD=0.41
6	祇園公民館	広島市安佐南区西原一丁目2340番地1、2309番地3、2336番地1、2337番地1、2337番地2、2337番地3、2340番地4等	避難所 (収容規模が大きい避難施設)	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.79 Is/Iso=1.05 CTU・SD=0.74	耐震改修済 (R2.3)	—	耐震診断の結果(詳細) Iso=0.75 X方向 B1階 Gis=3.84 1階 Is=0.28, CTU・SD=0.34 2階 Is=0.22, CTU・SD=0.28 3階 Is=0.31, CTU・SD=0.37 4階 Is=0.52, CTU・SD=0.49 Y方向 B1階 Gis=3.58 1階 Is=0.81, CTU・SD=0.76 2階 Is=0.89, CTU・SD=0.83 3階 Is=0.55, CTU・SD=0.52

要安全確認計画記載建築物【防災業務等の中心となる建築物】 耐震診断結果

広島市市所管分
令和6年3月22日時点

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考 (令和6年3月22日までに報告された数値)
						内容	実施時期	
7	五日市公民館	広島市佐伯区新宮苑11番14	避難所 (収容規模が大きい避難施設)	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=1.33 Is/Iso=1.77 CTU・SD=0.658	—	—	Iso=0.75
					Is=1.36 Is/Iso=1.81 CTU・SD=0.36	耐震改修済 (R5.1)	—	耐震診断の結果(詳細) Iso=0.75 X方向 1階 Is=1.36, CTU・SD=0.36 Y方向 1階 Is=2.66, CTU・SD=2.63
					Is=0.76 Is/Iso=1.01 CTU・SD=0.75	耐震改修済 (R5.1)	—	耐震診断の結果(詳細) Iso=0.75 X方向 1階 Is=0.77, CTU・SD=0.76 2階 Is=0.76, CTU・SD=0.75 3階 Is=1.19, CTU・SD=1.17 Y方向 1階 Is=1.02, CTU・SD=1.01 2階 Is=1.36, CTU・SD=1.34 3階 Is=2.87, CTU・SD=2.83
					Is=0.79 Is/Iso=1.05 CTU・SD=0.79	耐震改修済 (R5.1)	—	耐震診断の結果(詳細) Iso=0.75 X方向 1階 Is=0.79, CTU・SD=0.79 2階 Is=0.80, CTU・SD=0.80 3階 Is=1.57, CTU・SD=1.56 PH1階 Is=1.24 PH2階 Is=1.97 Y方向 1階 Is=1.28, CTU・SD=1.27 2階 Is=1.48, CTU・SD=1.47 3階 Is=1.63, CTU・SD=1.62 PH1階 Is=1.33 PH2階 Is=2.80

要安全確認計画記載建築物【防災業務等の中心となる建築物】 耐震診断結果

広島市市所管分
令和6年3月22日時点

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考 (令和6年3月22日までに報告された数値)
						内容	実施時期	
8	西区スポーツセンター	広島市西区庚午南二丁目8番地15	避難所 (収容規模が大きい避難施設)	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.75 Is/Iso=1.00 CTU・SD=0.567	耐震改修済 (R2.5)	—	耐震診断の結果(詳細) Iso=0.675 X方向 1階 Is=0.77, CTU・SD=0.81 2階 Is=0.51, CTU・SD=0.54 3階 Is=0.31, CTU・SD=0.33 RF階 Is=0.32, CTU・SD=0.34 Y方向 1階 Is=0.97, CTU・SD=1.02 2階 Is=0.59, CTU・SD=0.62 3階 Is=0.55, CTU・SD=0.58 RF階 Is=1.34, CTU・SD=0.94
	体育館棟							
	プール棟							
9	南区スポーツセンター	広島市南区楠那町205番地ほか5筆	避難所 (収容規模が大きい避難施設)	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.78 Is/Iso=1.04 CTU・SD=1.256	耐震改修済 (R4.3)	—	耐震診断の結果(詳細) Iso=0.675 X方向 1階 Is=0.64, CTU・SD=0.85 2階 Is=1.60, CTU・SD=1.68 3階 Is=1.28, CTU・SD=1.35 Y方向 1階 Is=0.48, CTU・SD=0.92 2階 Is=0.97, CTU・SD=1.02 3階 Is=1.09, CTU・SD=0.36
	本館							
	別館							
					Is=0.68 Is/Iso=1.007 CTU・SD=0.44	—	—	Iso=0.675
					Is=0.78 Is/Iso=1.04 CTU・SD=2.77	耐震改修済 (R4.3)	—	耐震診断の結果(詳細) Iso=0.675 X方向 1階 Is=0.74, CTU・SD=0.78 2階 Is=0.31, CTU・SD=0.33 Y方向 1階 Is=1.03, CTU・SD=1.08 2階 Is=0.86, CTU・SD=0.90

要安全確認計画記載建築物【防災業務等の中心となる建築物】 耐震診断結果

広島市市所管分
令和6年3月22日時点

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考 (令和6年3月22日までに報告された数値)		
						内容	実施時期			
10	三滝少年自然の家	広島市西区三滝本町一丁目73番地20ほか9筆	避難所 (収容規模が大きい避難施設)	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.11 Is/Iso=0.14 CTU・SD=0.121	未定	未定	RC造部分 耐震診断の結果(詳細) Iso=0.75 X方向 1階 Is=0.84, CTU・SD=0.96 2階 Is=0.11, CTU・SD=0.12 Y方向 1階 Is=0.56, CTU・SD=0.65 2階 Is=0.13, CTU・SD=0.15		
	本館棟							別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.17 q=0.68	S造部分 耐震診断の結果(詳細) Iso=0.75 X方向 3階(柱脚) Is=0.20, q=0.83 3階(上部) Is=0.54, q=2.18 Y方向 3階(柱脚) Is=0.17, q=0.68 3階(上部) Is=0.57, q=2.29
	食堂棟							別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.23 Is/Iso=0.30 CTU・SD=0.137	RC造部分 耐震診断の結果(詳細) Iso=0.75 X方向 RC造階 Is=0.23, CTU・SD=0.137 Y方向 RC造階 Is=0.36, CTU・SD=0.207
	体育館棟							別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.20 q=0.84	S造部分 耐震診断の結果(詳細) Iso=0.75 X方向 1階(柱脚) Is=0.20, q=0.84 1階 Is=0.71, q=2.88 Y方向 1階(柱脚) Is=0.39, q=1.58 1階 Is=1.35, q=5.42
								別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版) 別表2(7) 「屋内運動場等の耐震性能診断基準」	Is=0.15 Is/Iso=0.2 CTU・SD=0.059 q=0.2	未定

要安全確認計画記載建築物【防災業務等の中心となる建築物】 耐震診断結果

広島市市所管分
令和6年3月22日時点

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考 (令和6年3月22日までに報告された数値)
						内容	実施時期	
11	可部火葬場	広島市安佐北区可部町大字下町屋字高松山	火葬場 (主要な火葬場)	別表2(4-1) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	Is=1.106 Is/Iso=1.106	耐震改修済 (R2.11)	—	耐震診断の結果(詳細) Iso=1.00 X方向 1階 Is=1.197, Is/Iso=1.197 Y方向 1階 Is=1.106, Is/Iso=1.106
	火葬場棟							
	待合室棟							
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=1.16 Is/Iso=1.54 CTU・SD=1.309	—	—	Iso=0.75

附表 耐震診断の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価(抜粋)

別表2

耐震診断の方法		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
		I	II	III
		(地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。)	(地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。)	(地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。)
(3-2)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版, 2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$
(4-1)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	—	—	$1.0 \leq I_s / I_{so}$
(5-3)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版, 2017年版)	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$

※別表1, 2の構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性については震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずる恐れは少なく、倒壊するおそれはない。

※別表2に掲げる耐震診断の方法のうち、(4-1)から(5-6)、(11)、(12)の方法における安全性の区分については、補正係数(表中のU及びI_{so}を算出する際に用いるU)を1.0とした場合を示している。

※※ 特記無き限り、地域係数Z=0.9, 補正係数G=1.0, U=1.0として耐震診断されています。